



EL SALVADOR

学校名：上尾市立上平中学校

氏名： 富永 真琴

[担当教科：英語]

- 実践教科等：総合、英語
- 時間数：7時間
- 対象生徒：中学校3年生
- 対象人数：36人

[1]単元名

It's a small world. ～広い世界を身近に感じ、日本と世界の国々をつなぐ架け橋に！～

[2]単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・エルサルバドルの学習を通して、広い世界を身近に感じ、異文化理解・多文化共生について考える。
- ・知らない国に目を向け、視野を広げることで、義務教育を終える生徒の将来の選択肢を広げる。
- ・外国に目を向け、多面的に物事を考え、比較することで日本を見つめなおす機会とする。

[3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・外国と日本の教育の相違点について考える。【公平性】
- ・外国の人と文化交流を通して、異文化を受け入れ、日本の文化を伝える。【相互性・責任性】
- ・途上国と日本の生活の違いを理解し、受け入れる。【多様性】

[4]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 多 様 性	【世界がもし36人の教室だったら】 世界の現状に目を向けよう。 (総合)	・ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」で学ぶ。 ・世界の現状をクイズ形式で考え、代表36人の動きを見て答えを知る。	・ワークシート ・役割カード	・ワークシート
2 多 様 性	【エルサルバドルを知ろう】 知らない国に目を向け、発展途上国を知ろう。 (総合)	・エルサルバドルの写真を見たり話を聞いたりして、知らない国や発展途上国に目を向ける。 ・日本との違いについて前向きに考える。	・パワーポイント ・エルサルバドルの写真	・感想記入
3 公 平 性	【時間割を比較しよう】 日本の教育と他国の教育について、時間割を通して比較し、その国の特色や自分たちの教育の大切さに気付こう。 (総合)	・他国の教育事情を日本と比較しながら、日本の教育との違いを地域の特性を考えて推測をする。 ・自分たちの恵まれた教育環境に気づき、卒業後の上級学校進学の意味を考える。	・6カ国の時間割 ・模造紙 ・付箋紙	・話し合い活動の様子 ・発表の態度
4 5 相 互 性 ・ 責 任	【エルサルバドルの遊びを体験し、日本の昔遊びを紹介しよう】 エルサルバドルのおもちゃを体験し、日本との共通点に気付こう。 (英語) 日本文化を英語で紹介したり聞いたりして、日本を	・本校 ALT(Assistant Language Teacher)に日本の昔遊びを紹介し、日本の伝統文化を世界に発信する。 ・準備や調べ学習から日本の文化を見つめ直す。	・エルサルバドルのおもちゃ ・日本のおもちゃ ・模造紙	・発表準備への取組、協力 ・発表の内容と態度 ・原稿の英語

性	見つめ直そう。 (英語)			
6 7 相互性・多様性	【国際交流をしよう】 フィリピン人との交流を通して世界に目を向けよう。 (英語) 【What is the most important thing to you?】 国や文化の違う人たちと自分たちの価値観の違いを知ろう。 (英語)	・英語でフィリピン人と交流し、互いに質問をすることで、考え方の違いや文化の違いに気付く。 ・交流給食で日本の食文化を教え、食事の習慣やマナーの違いに気付き、受け入れる。 ・教科書の内容を理解し、発展途上国の子どもたちにとって大切なものを知った上で、自分の大切なものを再度考える。 ・フィリピン人に質問し、価値観の違いに気付き、受け入れる。	ワークシート 教科書	・言語活動の様子 ・内容理解 ・言語活動の様子

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【世界がもし36人の教室だったら】

本校3学年生徒260人を対象に授業を実施した。代表生徒36人に対して、世界の現状を動いて体感するワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を行い、役割カードを見て、実際に動きながら世界を表した。その他の生徒は動きを見て、世界の現状を学んだ。

.....ココがポイント！

本学年は36人学級のため、世界の人口を36人に縮小することで、自分のクラスという身近なところで考えることができる。

事前にワークシートを配布し、①男女比②識字率③人口密度④貧困率⑤使用言語について3学年生徒に予測をさせている。実際に代表生徒が動くと、「え～！」「うそ～！！」「これは自信あるぞ！」など生徒たちは自分の予想と比べながら、楽しんで世界の現状を学ぶことができていたようだ。全問正解した生徒はほんの数人しかいなかったが、正しい答えをワークシートに書きこむ様子を見て、世界に目を向けることに前向きであると感じた。

大陸別の人口密度では、アジアの人たちがロープの中でひしめき合い、代表生徒たちは座ることもできなかった。使用言語では、世界で最も多くの人々が話している言語を英語と予想する生徒が圧倒的に多かったが、英語を話す人は36人中4人、中国語を話す人は7人という結果には、全員驚いていた。

●感想●

- ・日本だけでなく、世界のみんなが平和で幸せに暮らせればいいと思う。
- ・2050年には人口が90億人になることに驚いた。人口が多くなると地球にも負担がかかり、これからどうなるんだろうと考えてしまった。
- ・同じ人間、みんなで助け合わなければならないと思った。
- ・こんなにも世界には格差があるのだと驚いた。
- ・日本の少子高齢化が進んでいることがはっきりと数字にあらわれていた。
- ・世界に目を向けてみて、多くの課題が残されているんだなと思った。
- ・世界のことも日本のことも、知らないことだらけ。

2 時限目：【エルサルバドルを知ろう】

エルサルバドルで集めた写真をみせながら、衣食住、家族、驚きの光景について紹介した。町中で見かけた有刺鉄線、鉄格子、銃をもった護衛の写真は、3枚の写真を用意し、生徒に気付かせるような工夫をした。また、この国の抱える問題、日本が伝えられることと学ぶことについて、私なりの考えを話し、生徒に考えさせた。

終末に、「日本を基準にしたらエルサルバドルの人々はかわいそうに見えるかもしれない。でも、本当にかわいそうなのか」と問いかけた。日本しか知らないから、日本を基準にしか物事を考えることができない。便利な私たちの生活には反省すべき点もたくさんあり、途上国から学ぶこともたくさんある。私た

ちの持っている技術をもし途上国が必要としているなら教え、その国の発展の手助けをし、お互いに助け合って生きていくことが大切である。そのためにも、他の国を知ること、世界に目を向けることは大切なことだと生徒に伝えた。エルサルバドルの人々の笑顔の写真を数枚見せ、幸せの基準は人それぞれであり、エルサルバドルの人々が不幸ではないということを生徒は感じたようだ。

●感想●

- ・これからたくさんの国の現状を知って、日本を基準に他の国を見ないようにしたい。
- ・日本が中心ではなく、世界にも視点を置くという言葉が心に残りました。
- ・環境で人格が変わるわけではないことがわかった。
- ・日本では当たり前のことが、他の国では当たり前ではないことがわかった。
- ・トイレが整備されていなかったり、水道水が殺菌されていなかったり、日本では考えられないことが多いと思った。
- ・幸せの基準は人それぞれなんだと感じた。
- ・今を大切にしようと思った。
- ・日本の技術を他の国に活かしていきたい。
- ・途上国は貧しいながらも皆が協力して幸せそうに暮らしていたので、私たちももっと協力したい。
- ・エルサルバドルの写真を見て、最初は貧しそうで、かわいそうな国だと思ったけど、最後に子どもたちの笑顔を見て、私たちと変わらない笑顔だったから、この国も幸せなんだと思った。

3 時限目：【時間割を比較しよう】

エルサルバドルの小学校の時間割を見ながら、エルサルバドルの教育について共に考えた。毎日が半日授業、給食の有無、学ぶ科目の違い等、日本の教育とエルサルバドルの教育の相違点に気付かせた。エルサルバドル以外の国の教育は日本とどう異なるのかを比べるために、6つのグループに分かれ、6カ国(ドイツ、フィリピン、マラウイ、サウジアラビア、タイ、トルコ)の時間割をそれぞれ見せて、自分たちとの違いなど気付いたこと、それに対する推測をさせた。

ココがポイント！

気付いたことはピンクの付箋紙に、疑問は水色の付箋紙に、どんなことでも書いて、模造紙に貼っていく。班員で考えた推測に対し、教師は黄緑色の付箋紙に補足を書き込む。廊下掲示をすることで他クラスの生徒にも考えを共有させる。

とはせずに、もやもや感を残した状態で授業を終わらせた。

早く学校が終わっていいな、授業が少なくていいなという声もあがったが、十分な知識を身に付けることができずに、社会に出てから学び直す人も少なくないのが現状である。給食のない国もめずらしくない。日本の教育制度がいかにしっかりしているか、義務教育最終学年として今まで学んできたことの大切さを感じることができたようだ。高校進学の意味、将来の展望を見ることのできる良い機会となった。

4、5時限目：【エルサルバドルの遊び体験、日本の昔遊びを紹介しよう】

エルサルバドルで購入したけん玉やコマのようなおもちゃ遊びを体験させた。エルサルバドルの子どもたちと日本の子どもたちが同じような遊びをして育っていることから、共通点を感じたようだ。日本とは形や大きさが違い、他の国ではどうなのかということに興味をもった生徒もいた。

その後、日本の昔遊びを紹介準備に取り掛かり、調べ学習や英語原稿の作成に取り組んだ。本校が使用している英語の教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3(開隆堂)の PROGRAM 6 では、日本文化を英語で説明できるようにする内容となっている。本校 ALT (Assistant Language Teacher) が日本に来て間もないこともあり、教科書の内容を学び終えた後、班ごとに日本の昔遊びを英語で ALT に説明し、体験させるという発表を行った。

各班に共通する項目は以下のとおりである。

- ①過去分詞の後置修飾を含む文を必ず1回は使う。
- ②発表の最初は必ずみんなに問いかける。Have you ever ~? Do you ~?
- ③紹介するものに対する自分の経験談を入れる。
- ④紹介するものの歴史や用途を紹介する。
- ⑤やり方を説明し、実演する。その後、ALT に体験させる。
- ⑥ALT の質問に答える。

紹介した昔遊び

折り紙 あやとり
けん玉 こま
はねつき



生徒と一緒に
折り紙に挑戦

エルサルバドルの遊びを体験させた後に、なかなか遊ぶ機会のない日本の昔遊びに触れ、調べることで、日本を見つめ直すことができた。中には、昔遊び名人が数人いたり、今回初めて遊んだおもちゃがある生徒もいた。

今までの授業ではエルサルバドルを中心に世界の文化を受け入れることに重点をおいて授業を進めていたが、昔遊びを通じて日本の文化を外国人に初めて紹介することで、日本の文化を受け入れてもらう授業となった。発表を見て、生徒に教わりながら昔遊びを体験した ALT は、「日本のことがわかってうれしい。日本がもっと好きになった。」と感想を生徒に述べていた。

ココがポイント！

生徒自身が無邪気にエルサルバドルのおもちゃに興味を持って遊んだように、ALT にも日本の昔遊びに興味を持って楽しんでもらえる工夫をさせた。単に発表方法を学ぶだけでなく、英語で教えながら体験させること、ALT の質問に英語で答えることで、コミュニケーション能力の育成につながる。

6、7時限目：【国際交流を通して世界に目を向けよう What is the most important thing to you?】

フィリピン人学生70人を本校に招き、英語の授業参観と交流授業を行った。交流授業では、フィリピンの公用語であるタガログ語と日本語の教え合いを簡単な英会話をういて行った。その後、グループに分かれて質問の時間を設定し、学校や私生活など様々な質問をしながらコミュニケーションを図った。日本のアニメがフィリピンでも人気があることなど、広い世界を身近に感じられたようだ。給食もフィリピン人と一緒に食べ、当日の献立であった手巻きずしの作り方と食べ方、食事の挨拶を英語で教えながらともに食事をした。

英語の教科書 PROGRAM7では、発展途上国で働く国際協力師・山本敏晴氏の活動を英語で読み、発展途上国の子どもたちが大切にしているものについて考える内容となっている。

●ツバルという国に住む子どもにとって一番大切なこと(もの)は、いつか海に沈んで国がなくなっ

しまう恐れがある為、気候変動を止めることという国全体を考えた答え。

●日本の中学生(本学級生徒)にとって一番大切なこと(もの)は、大半は趣味に関わるものや、好きなキャラクターのグッズといった身近で個人的な答え。

●フィリピン人学生にとって一番大切なこと(もの)は、家族や友達といった、人に関する答え。

この質問には正解も不正解もない。言語、環境、生活の違う人々が、互いに助け合って生きていくためには、他の国を知ること、世界に目を向けることは大切なことだと、本授業計画2時限目の「エルサルバドルを知ろう」に関連させ、生徒が様々な考え方を外国の人々から学び、多方面から物事を考えられるようになったと思う。また、多様な価値観を知り、それらを受け入れることのできる寛大な心の育成となったのではないかと思う。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

今までの英語の授業では、英文法や読解だけでなく、教科書の題材となる国についての授業も行ってた。しかし国情程度の内容を単発で扱うことがほとんどであった。今回の国際理解の授業では、授業を終えるごとに、生徒たちの意識が変わっていくのがわかった。今までは英語の授業に対して、「日本人だから英語は必要ない」、「将来外国には絶対に行かないから英語がわからなくても問題ない」と、特に英語に苦手意識を持つ生徒がよく口にしていた。しかし、フィリピン人との交流授業と交流給食を終え、「外国人は怖いと思っていたが、とても優しくてみんな明るかった」、「共通の話題で盛り上がるのができた」等、今までの価値観が大きく変わったようである。日本・日本人との違いを知るだけでなく、文化や習慣の違いをきちんと受け入れることができていた。また、ジェスチャーや簡単な英単語でコミュニケーションを図ることができ、生徒の自信につながったようである。伝えたいことがなかなか伝わらなかった時、「もっと英語が話せれば…」と全員が思い、英語が世界をつなぐ大切な道具であることに、生徒たちが実体験から感じ取っていた。

エルサルバドルの研修があつての国際理解教育を続けていくうちに、The most important thing to me is that the hearts of the people of the world are one.(私にとって一番大切なことは、世界の人々の心が一つになることです)と考えるようになった生徒がいた。生徒は純粋で、体験したことや感じたこと、考えたことから得たものを素直に吸収することができる。世界と日本の絆を結ぶ第一歩となったのではないかと思う。義務教育を終える中学3年生が、世界に目を向けるよい機会となり、日本と世界との関わり方の大切さに気づき、視野を広げることで今後の人生において、何かのきっかけとなることを期待する。

〔7〕授業実践の成果と課題

中学3年生の2学期は、英語の授業で日本文化や国際理解の内容を扱う単元があり、エルサルバドルでの研修と結び付けることができた。また、11月末にフィリピン人を大勢招いての交流授業もあり、日本しか知らなかった生徒たちが、世界に目を向け、日本を世界に発信し、交流をすることで世界の架け橋となる経験ができたことも大きかった。

国内で行った研修で、国際理解教育の様々な教授法、ワークショップのやり方を学んだ。どのワークショップも楽しく学べるもので、授業でやってみたいと思うものばかりだった。しかし、今回の自分のテーマを考えた時、ただやみくもに授業に取り入れてしまうと、それぞれの授業が関連性をもたなくなってしまう恐れがあった。実際に、本レポートの計画には入っていないが、単発で終わってしまい、ただ楽しく活動しただけで、目的や目標を明確にできなかった授業があった。また、自分の担当学年と学級でのみの授業となってしまう、全生徒が世界に目を向けることができたわけではない。来年度以降は、年間計画をたて、自分も学び続けながら、全教員で国際理解教育を取り組めるような体制をとっていきたい。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・新・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会 2006年)
- ・SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 (新里真男他 開隆堂 2012年)

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

1時間目 100人村ワークシート

世界に目を向けてみよう

Q1 世界の人口は、現在、何億人くらいでしょうか？
 ① 5億人 ② 6億人 ③ 7億人

Q2 1950年の世界の人口はどれくらいでしょうか？
 ① 2億人 ② 3億人 ③ 4億人

Q3 2050年の世界の人口はどれくらいと予測されているでしょうか？
 ① 7億人 ② 8億人 ③ 9億人

世界の人口を、上中下3学年の1クラスに縮小して考えてみよう！

Q4 世界の人口のうち、男性と女性、どちらの人数が多いと多いですか？
 ① 男性 ② 女性
 実際は・・・36人中、男性()人、女性()人

Q5 世界は子どもと大人(お母さん)、どちらが多いと多いですか？
 ① 子ども ② 大人
 実際は・・・36人中、子ども()人、大人()人、お母さん()人
 日本の場合、子ども()人、大人()人、お母さん()人

Q6 アジアの人口は、世界人口の何割にあたるでしょうか？
 ① 40% ② 60% ③ 80%
 実際は・・・36人中、アジア()人、アフリカ()人、ヨーロッパ()人、北アメリカ()人、南アメリカ()人、オセアニア()人

Q7 次の言語を、世界で最も多くの人話している順に並べてください。
 ① スペイン語 ② 英語 ③ シンディー語 ④ 中国語
 実際は・・・36人中、スペイン語()人、英語()人、シンディー語()人、中国語()人

Q8 ①  पानी ②  औषधि ③  विष

4、5時間目 日本文化紹介概要

デレック先生に日本文化を紹介しよう

日本の遊びや日本の物をデレック先生に紹介しよう！

発表形式
 ・グループでテーマを決める。
 ・テーマ
 ① 折り紙 ② かるた、百人一首 ③ あやとり
 ④ お手玉 ⑤ けん玉 ⑥ 折り紙 ⑦ 風船
 ⑧ うさぎ、せんま

・発表は全て英語で行う。1グループ5分(準備、発表含む)
 ・観客は全員参加し、内容の面白さを評価するイラストを書く。
 ・賞状を授けながら説明し、デレック先生に実際に試してもらうような流れを作る。
 ・発表後、デレック先生から簡単な質問コーナーがあるので英語で答える。

約束
 ・発表は同じ順番で発表する。1回目は入る。
 ・発表の順番は必ずみんなに聞いてもらう。
 Have you ever...? Do you...?
 ・自分の経験を入れる。(未経験ならそのことを伝える)
 ・グループの全員が発表で発表できるように準備の練習をする。
 ・練習を繰り返して発表する。
 ・発表する。

発表内容
 ・英文を作る(全員) → 練習時に文字を書く人 → イラストを書く人
 ・質問に答える人 → 発表する人 → 発表後答える人

発表資料
 シンプルな英語で日本を紹介する。(バリエーション)
 日本文化を英語で紹介する事例。(アタラシ)
 教科書
 筆記、印刷資料

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

研修をしていく中で、私自身が気付かないところで、途上国より優位に立っていること、日本を基準に物事を考えていることに気付かされた。エルサルバドルにはカルチャーショックもたくさんあったが、この生活や文化の驚きや違いをきちんと認識し、帰国時には受け入れている自分に成長を感じた。そして何より、同じ志を持つ仲間との出会い、現地や日本で活躍するJICAスタッフとの出会い、エルサルバドル人との出会いはかけがえのないものとなった。今後もこの実践にとどまらず、多くの生徒に世界に目を向ける授業を展開していきたい。また、自分が途上国と日本の架け橋となれるよう、様々なことに挑戦していきたい。

「世界中どこだって笑いあり涙あり みんなそれぞれ助け合う 小さな世界」

「世界中だれだって微笑めば仲良し みんな輪になり手をつなごう 小さな世界」

6、7時間目 フィリピン交流授業

Let's communicate!

Name()

A: How do you say "friend" in Tagalog / Japanese?
 B: We say 友達.
 A: Could you write it down for me?

in Tagalog		in Japanese	sign
	peace		
	love		
	hope		
	dream		
	friend		
	future		
	happy		
	Hello.		
	Good bye.		
	Thank you.		

What is the most important thing to you?

作文用紙

挨拶 Hello, everyone.
 Today we'll tell you about ()

内容紹介 Do you know ()?
 Have you ever ()?
 I played it when I was a child.
 It's easy / difficult for me to ()

自分の経験など

やり方の紹介 Now, I'll tell you how to ()
 (実演) Look at me.

デレック先生に体験してもらう Mr. Derek, please try it.

デレック先生の質問

That's all. Thank you for listening our presentation.